2.絵葉書

本学では創立以来、確認されているもので大正年代も含めて５回学校を紹介した絵葉書を作成している。

大正年代
専門学校時代　千葉金浜谷、保田海岸の寺で宿泊し水泳実習が行なわれていた。

昭和36年当時、吉祥寺から引越ししたばかりのグラウンド風景
右手に旧ふじ寮が見える。大学周辺にはなにも建物はない…

昭和55年当時のグラウンド

本学関係・寄贈図書

平成27年4月～平成27年8月まで受入分

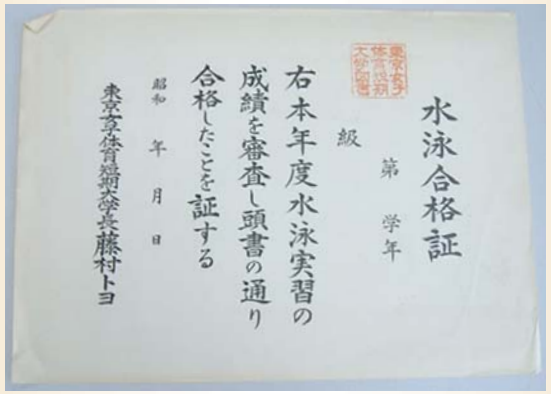
No.	寄贈者	書名	著者名	出版者（発行年）
1	阿江美恵子	体育系大学における運動部指導者の資質育成	阿江美恵子 大石千歳 著	東京女子体育大学（2015）
2	金子一秀	スポーツ運動学入門	金子一秀 著	明和出版（2015）

学園史資料の収集・整理品の中から No.1

図書館では学園史資料の整理・収集・保存をおこなっています。現在では想像できないでしょうが、明治・大正・昭和初期までは写真撮影、また写真は大変貴重なものでした。その所蔵品の一部を紹介いたします。

1.本学関係資料の写真

昭和初期の水泳実習　千葉　保田海岸（大正12年～昭和6年まで実施）
３週間行われた。宿舎は日本寺、在林寺に宿泊、自炊であった。



水泳合格証

第　学年　級

右本年度水泳実習の成績を審査し頭書の通り合格したことを証する

昭和　年　月　日

東京女子体育短期大学長　藤村トヨ

短期大学時代の吉祥寺時代の水泳合格証（昭和25 ～ 30年頃？）

編集･発行：東京女子体育大学･短期大学図書館運営委員会
東京都国立市富士見台 4-30-1　TEL.042-572-4131

TWCPE Library Report
LiVRE
リーヴル
学校法人藤村学園 東京女子体育大学・短期大学附属図書館報
2015.11　No.22

―歴史を感じよう―

「歴史」とは何か考えたことはありますか。古いとか、難しいとかあまり興味を持てない人もいるでしょう。

しかし、歴史は昔を振り返ることだけではありません。今日のこの時も我々は歴史の1ページを新たに作り上げているのです。つまり歴史とは、古いものでも、難しいものでもなく、今を生きることでありまさに皆さんの日々の営みそのものなのです。

さあ、皆さんも日々生まれ変わる新しい歴史を図書館で感じてみませんか。

昭和初期の菅平でのスキー講習（後列中央は藤村トヨ先生（60歳からスキーを始めた））
第1回のスキー講習は昭和10年2月7日より1週間、長野県菅平高原文部省体育研究所で実施された。昭和17年は中止され18、19年に再開、戦中、戦後の混乱期は中止されている。その後昭和30年より長野、山形のスキー場で開催。

おすすめの本

「よい体育授業を求めて」

この本は「よい体育授業」を求めて、特定の立場やイデオロギーに左右されない研究会として設立された「体育授業研究会」が長年の研究の成果についてまとめた本です。

著者は大学の研究者から教育委員会等行政の担当者、実際に指導を行っている教員までおり、様々な立場から「よい体育授業」について具体的な実践をベースに論を進めています。

将来体育科の教員を目指すのであれば、この本を「自分だったらどうするか」と自身の授業実践に思いをはせながら読み進めてみて下さい。

（体育科教育研究室・末永　祐介）

◎ よい体育授業を求めて（体育授業研究会 編／大修館書店）

「14歳からの哲学」考えるための教科書

◎ 14歳からの哲学―考えるための教科書（池田 晶子 著／トランスビュー）

「14歳」というタイトルを怪訝に思う人もいるかもしれません。確かに本文は中学生へ向けて書かれたもので、文体も平易です。

しかし、人生の様々な問題を考えるということは、実は年齢に関係ありません。「自分とは何か」、「理想と現実のギャップ」「生きることと死ぬこと」など、誰もがいつか人生のどこかで直面することです。

この本は、そのときに「悩む」ではなく「考える」という態度を教えてくれます。生涯において学ぶということの深さと本質を知ろうとする人に、ぜひとも触れていただきたい一冊です。

（身体学研究室・武藤　伸司）

「病気になってもいっぱい遊びたい」

重い病気の子たちは、外に遊びに行くことや学校に行くことすら出来ず、病院で孤独な入院生活を送る子供たちが少なくありません。

そんな様々な子供たちとボランティアを通して一緒に遊んだ17年間の日常が書かれています。自分がいかに恵まれているのかを思い知らされ、またこんなにも頑張っている子供たちがいるのかということを知り、とても勇気づけられる本です。

◎ 病気になってもいっぱい遊びたい（坂上 和子 著／あけび書房）

この本を通じてボランティアに興味を持ってもらったり、子供たちから刺激を受けてもらえたらと思うので一度読んでもらいたい一冊です。

（大学3年・強矢　歩美）

「風が強く吹いている」

この本との出会いは高校生の頃で、今ではお気に入りの一作品です。

この作品では駅伝が取り扱われています。駅伝未経験者がほとんど、というチームが結成されるところからはじまり結成された年に箱根駅伝を目指す、というあらすじで、一見ありがちに思われますが、「仲間」や「自分の役割」を改めて考えさせられました。様々な境遇の十人がそれぞれピックアップされ、また、駅伝の場面では疾走感があるので、まるで自分が体験しているかのようです。

数年前に映画化もされ、これからの季節にもぴったりな作品です！

（大学4年・江口　知沙）

◎ 風が強く吹いている（三浦 しをん 著／新潮社）

「教育という病」子どもと先生を苦しめる「教育リスク」

教育現場には、相当なリスクがあるのに「教育に良いから」という理由で推奨される様々な問題があります。その典型は「体罰」です。

暴力をふるった指導者は、しばしば「行き過ぎた指導をしてしまった」と弁明します。ここには「良い教育のためには暴力も仕方ない」という価値観が隠れています。これが「教育のためなら何をしてもよい」という問題―本書の表現では「教育リスク」―です。

本書は、こうした様々な教育リスクについて、社会学的な視点から説明しています。社会学の入門書としても、読み物としても、格好の１冊です。

（スポーツ社会学研究室・笹生　心太）

◎ 教育という病―子どもと先生を苦しめる「教育リスク」（内田 良 著／光文社新書）

「夏季オリンピック六ケ国語辞典1～5」

この本は、過去に「冬季オリンピック」や「ワールドカップサッカー」あるいは「体操競技」に関するスポーツ用語の対訳辞典を編集した著者が「あと一つ、夏季オリンピック六ヶ国語用語辞典を出版できたらいいなあ…」という思いから作られた本です。

内容は、一般スポーツ用語を含む 36 種目のスポーツ用語についての対訳が六ヶ国語（日本語・英語・ドイツ語・ロシア語・フランス語・スペイン語）で書かれており、また、外国語にはカナによるルビ表記やアクセント表示がされています。

◎ 夏季オリンピック六ヶ国語辞典 1～5（本多 英男 著／三恵社）

この本の序文には、「スポーツは…国籍や言葉の壁を越えて参画することができる文化」だとしながらも「実際の国際競技大会においては…言葉の壁に悩まされる場面が多い」と述べています。このように、実際に競技に携わっている方から、取り上げられたスポーツ種目に興味がある方、また、外国語に興味のある方は、ぜひ目を通して見られてはいかがでしょうか。

（図書館司書・木原　明美）